

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL
 ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB
 CHARTERED IN 2004



THE YS MENS CLUB OF ATSUGI
 4-16-19 NAKACHO ATSUGI
 KANAGAWA JAPAN 〒243-0018
 TEL046(223)1441 厚木クラブ会長 小松伸史

2018年7月 会報 厚木ワイズメンズクラブ 第166号

主 小松クラブ会長 明るく・楽しく・前向きに
 湘南・沖縄部部長 Y'sの絆を強め、広げよう
 東日本区理事 広げよう ワイズの仲間
 題 アジア会長 ワイズ運動を尊重しよう
 国際会長 ともに、光の中を歩もう

厚木クラブホームページ:
<http://ys-atsugi.jimdo.com/>



5月例会卓話報告

5月23日厚木MCAにて本例会を行いました。
 卓話者は横浜つづきクラブの鈴木茂さます。



私は銀行に勤めておりましたので金融に関する話はいくらでもできます。でもそんな話は面白くないので今日は私がYMCA史学会の理事もやっている関係もあってYMCAの歴史について少し喋りたいと思います。

YMCAは現在色々な仕事をしています。キャンプ、水泳教室、サッカー教室、語学スクール、保育園、こども園、専門学校、オルタナティブ教育、発達障害児支援、高齢者支援、生涯教育、国際地域交流、宿泊施設管理、ボランティア活動、行政委託事業など多岐にわたっております。赤ちゃんから高齢者まで幅広い事業活動をしています。

次にYMCAの歴史について少しお話をいたしま

すYMCAは1844年 George Williams をはじめとする12名の教育青年によってロンドンで創立されました。産業革命の進展からヨーロッパアメリカの各都市で教育青年による会員相互の人格向上と奉仕実践活動を目的とする運動が広がりました。

そして1855年に最初の世界YMCA大会が開かれました。

日本では1880年東京YMCA設立、1882年大阪YMCA設立、横浜YMCAは1884年に出来ました。

横浜Yの歴史は日本では古い部類に入ります。

ライオン歯磨きの小林弥太郎という人が自分の土地7000坪を東京YMCAに寄贈しました。それをキャンプ場として使うなどの発展もありました。

横浜YMCA独自の活動としてタイのパヤオセンターがあります。山岳に住む子どもたちを人身売買から救うために活動しています。

横浜YMCAの事業内容ですが、収益については日本で一番を誇っています。収入が一番多いのは保育教育、2番目が健康教育です、年収入が60億7000万円あります。内、会員の賛助会費は2パーセントぐらいです。でもお金ではなく、支えているという気持ちと行動を大切にしてください。

YMCAが何に貢献しているかと言うとボランティア活動、関東大震災救援活動(1923年のこと)、伊勢湾の支援活動(1959年のこと)、現代でも3.11の地震や熊本地震他国の内外での活動は皆さんご存知の通りです。

このようなYMCAの活動を人的あるいは資金的にお支え頂けるようお願いして今日の話を終ります。ありがとうございました。

例会データ	6月	在籍会員	16人
会員	13人	メイキャップ済み	人
ビジター	人	出席率	%
ゲスト	1人	ロバ	
合計	14人		9,320円

沼津大会参加報告

第21回東日本区大会は2018年6月2日（土）・3日（日）「プラサヴェルデ」に於いて開催されました。前日のゴルフコンペには厚木クラブからの参加はありませんでした。

6月2日（土）

代議員会ではすべての議案が審議後に承認されました。小松会長出席。

「富士山のように高く」のもと、登録総数は480名というのはこしばらく無かったすごい数だと思います。厚木クラブからは小松会長をはじめ佐藤次期部長、田口さん、川口さん、北村さん、小林美智枝さん日下部さん、森田さん、徳澤さん、堀田の10名でした。

オープニングセレモニーには沼津学園飛龍高校の和太鼓演奏が力強く行われ、厚木大会時の白龍太鼓を思い出しました。

バナーセレモニー、挨拶、メモリアルアワーと続き休憩の後、各委員、部長報告、小休憩の後、岩崎恭子さんの記念講演と続きます。講演では当時獲得された金メダルを持参されてタイムや14歳という年齢でメダルを取った時の戸惑いやオリンピック後の苦悩の日々、姉妹間の関係など話がありました。幸せは自分の手でつかみに行くという結論だったと感じました。



いよいよ晩餐会です。500名ほどが参加し、乾杯して始まりました。参加する部ごとの出し物もあり。アピールタイムありとさまざまなプログラムが展開され、本番に強いワイズの力強さと大会スタッフのおもてなしを感じる事が出来ました。



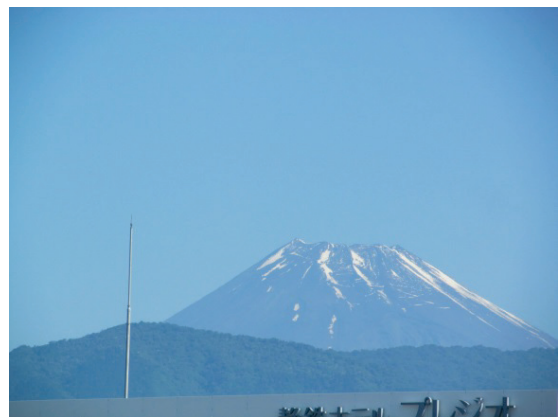
節子の部屋

厚木クラブでは晩餐会終了後のフェロシップとしてホテルの部屋で二次会を行います。ここへは厚木クラブだけでなく、湘南・沖縄部の会員、YMCA職員など15人ぐらいが集まります。

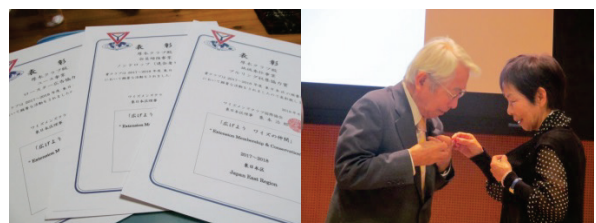
ここでの本音トークは私にとっても大変勉強になります。そして元気になります。

6月3日（日）

朝、快晴の中、ホテルの窓から富士山が見えました。私たちを歓迎しているかのようにでした。



東日本区アワー②として、各事業主任からの活動報告と表彰発表がありました。



役員引継式では金子湘南・沖縄部部長から我が佐藤節子次期部長へ引き継がれました。

エクスカージョン

厚木クラブでは今回川口さんのコーディネート

で独自エクスカージョンを企画しました。車2台に分乗して三島まで行き名物のうな重を頂き、三島大社から周辺の散策。



まとめ

今回の沼津大会を一言でいえば非常に楽しめた大会でした。スタッフの手作り感とフレンドリーな感覚も感じられました。厚木クラブ内のまとまりもありました。みなさんありがとうございました。

あつぎYMCA子ども館 第2回療育を考えるセミナーに参加して

「身体や手先の不器用さを抱えるお子さんへのアプローチ」

日時；2018年5月17日 会場；厚木YMCA
講師：三浦 美紀氏 横浜YMCA学院専門学校学科長

「不器用な子供たちへの支援の仕方について」

1、身体の使い方がわからない子どもたち

運動が苦手、滑り台やブランコ、ボール遊びが嫌い。食べこぼしが多い、着替えに時間がかかるなど、お子さんによって感じ方がちがう。

2、子供たちのできない理由を探る

自覚しにくい感覚がある 本人もイライラ、相手もイライラ

3、子供たちに関わることでできること

明日からできる運動遊び

①スローテンポな音楽はバランス意識できる。つかまり遊び、ジャンプ遊び、

②自分の身体のどこが痛いのか痒いかわからず体全体をかきむしる子どもに、感覚と触覚がわかるような触りっこ「どーれだ」「どーこだ」シールを貼ったり剥がしたりして遊ぶ。

※子供がやってみたくて 上手くできた時、ほめる！

※一緒に喜び。一緒に怒る。など感情を共感する

まとめ：どの遊びもこどもたち子供たちが興味を持って達成感を感じられるように遊べること。子供を受け止め共感すること。等々具体的に遊ぶ時のポイントを、優しく解りやすく、90分はあっという間に引き込まれた講義でした。(佐藤節子)

YMCA会員総会報告

2018年5月26日湘南とつかYMCAで会員総会が実施され、厚木クラブからは佐藤次期部長、川口さん、堀田の3名が出席しました。

礼拝、讃美歌、挨拶と続き全会員数511名の内出席者125名、委任状207名により総会成立が宣言され、議事に移りました。第1号議案から第5号議案まですべて承認され、事業・決算、予定・予算が決まりました。ワイズメンバーはすべて維持会員なるべきだと思いました。



仮称「町田広域クラブ」設立準備会報告

2018年6月20日、町田中央公民館にて(仮称)町田地域新クラブ設立第3回準備会が行われました。

厚木クラブからは小松会長、小林書記、堀田の3名が出席しました。

今回は、町田YMCA活動紹介と今後の予定確認などでした。

今後の日程

第4回準備会 7月18日

目的、会則、会費、名称の決定

第5回準備会 8月15日

総会準備

設立総会 9月19日

2017-2018 第4回部評議会報告

2018年6月16日(土) 横浜中央YMCAにて開催されました。厚木クラブからは佐藤次期部長、小松会長、堀田次期部書記が出席しました。

第1号議案から第8号議案まで一部にミスプリント等があり修正され承認されたが、次々期部長に沖縄クラブの会員が了承されている関係で、運用上の課題が予測される為、仮称「2019-2020年度部運営検討委員会」を各クラブ1名の参加で立ち上げ、検討することとした(議案第8号)

幹事より一言

長い事YMCAに携わってくださった鈴木茂先生の卓話を聞きながら、感じたことがあります。YMCA創立時の精神が果たして今、YMCAで学ぶ青年たちに浸透しているのでしょうか。一年に一回でも、創立記念日に生徒全員にYMCAの創立精神を授業で語り続けていく必要があるのではないかと感じました。その若者たちの中から、YMCA精神を受け継いだ、第二のウィリアム・メレル・ヴォーリズ(日本名:一柳米来留)が生まれるのではないかと。ヴォーリズは「隣人を愛しなさい」という信仰を持って来日し、日本女性と結婚し、近江八幡の町にYMCAをつくり、医薬、建築の会社をつくり、幼稚園、学校、病院、ターミナルケア施設(ホスピス)、文字通りゆりかごから墓場まで「隣人愛」に基づいた施設をつくり、活躍されました。厚木の近辺に、YMCA精神を継いだ病院、ホスピスができることを夢見ながら、また、その事業に厚木ワイズが貢献できたらと思いながら聞かせていただきました。

7月クラブ活動予定

7月21日 17:00～ : 第2例会

7月25日 18:30～ : 本例会(部長公式訪問)

厚木YMCAより

みつかる。
つながる。
よくなっていく。



厚木YMCAの事業や活動を少しずつ紹介させていただいております。今回は健康教育部のご紹介です。今年度、厚木YMCAの健康教育部はスポーツクラス(健康教育事業)、学童保育(アフタースクール事業)、そして児童発達支援クラス(オルタナティブ事業)の3つの事業を展開しています。横浜YMCAの事業部門でいうと3つにまたがる事業を1つの部門としてスタートしました。このような部門は横浜YMCAで唯一となり、さまざまな専門職によるさまざまな観点をもって、子どもの成長をサポートできる部門となります。子どもたちが小さなころからもつ一人ひとりの個性と共生しながら歩むことのできる厚木YMCAとなれるように取り組んでいこうと思います。

6月17日(日)には全国のプールのあるYMCAで、今年も全国一斉イベントを開催しました。その内容のひとつが「もしもの時の…着衣泳!」です。着衣泳はその名前通りに、まず服を着たままプールに入ります。参加した子どもたちはみな、水に入った時の服の重さや肌にくっつく感触に驚いていました。その後、もしも海や川などで落ちてしまった時に、どのように助けを待てばよいのか、もし溺れている人を発見したら、どのような行動を取ればよいのかを学びました。海や川で落ちてしまった時は、泳いだりせず、とにかく無駄な体力を消費しないこと、じっと「浮き身」の姿勢で待つことが大事なのです。着衣泳では水遊びは楽しい反面、危険な面もあるということを知ってもらえたかと思います。

毎年水難事故は起こっていますが、少しずつ減ってきています。このような体験を通して、水難事故が毎年着実に減っていき、最終的には0になることをYMCAスタッフ一同願っています。興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひYMCAのプールで着衣泳体験をしてみませんか?

「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」。